

≡ 200号おめでとうございます ≡

この間の呼びかけ人、事務局の皆さんに感謝！

柳 掬一郎

九条の会が発足した頃、時代は大きく右に傾いていったと記憶しています。教育基本法が変えられるとは思いませんでした。石原慎太郎都政下で「日の丸、君が代」の強制が学校現場でも強まり、「10・23通達」では、従わない者は処分すると匂わせました。事実、04年3月の卒業式で君が代斉唱時に不起立だった教職員は戒告処分されました。この年の5月定年で野田に帰り、野田・九条の会を知り、会の活動に参加させていただきました。

清水公園での宣伝・署名行動では若者たちとも会話「九条論議」にもなりました。「九条って何ですか?」「授業でやってないのか?」「そういえばやったかな。」「まだやってねえよ。」と話がはずみ、楽しい行動でした。駅頭宣伝、戸別訪問しての署名のお願い。講演会、バスツアー、平和展、沖縄への学習旅行と様々な企画もありました。

川間九条の会通信を届け終わっての帰途、自転車で転倒・骨折し活動から遠ざかっています。

参院選後の改憲の動きにどう対応したらいいか。気が揉めます。



愛宕駅は高架駅となりました。旧地上駅舎前でも活動しました。

戦争をなくすために

とことん守ろう！

憲法9条

武智多恵子

私は小学校3年生の時、太平洋戦争敗戦で台湾からの引揚者です。終戦77年目にまさか…が現実…

今年2月にロシアがウクライナ侵攻を開始してから半年が経とうとしています。侵攻が始まった直後に取材を受けたウクライナ人が「21世紀の現代にあってもこのような蛮行が行われるなんてとても信じることができない」と話していたように、私達は過去の大戦の反省をいとも簡単に忘れ、同じ人類に対して残酷な行為が出来てしまうことを認識せざるを得なくなりました。また、他国や国連事務総長の停戦協議への努力も空しく、この戦争が終わる気配は全く見られません。

ウクライナ戦争により改めて明確になったのは、

☆戦争というものはいつの時代でも人の心を変えてしまう

そして ☆戦争は…一旦始まってしまうと簡単にやめる事ができない

という事実です。

私は、このような時だからこそ、すべての日本人が憲法9条の真の価値を再考する必要があると思うのです。

戦争放棄、すなわちどのような理由があっても絶対に戦争を起こさないことが今の世界に最も大事なことなのです。世界全体が戦禍に落ちることを避けるためにも、日本人と日本政府は憲法9条の下に行動し、ウクライナ戦争は即時停戦、そして新たな戦争の火種をつくらぬ不撓の努力をしなければなりません。

世界中の人々が望んできたこと。日々穏やかに暮らせること、誰もが自分らしく自由に。それを実現させることとして、世界人権宣言前文は示す。

「人類家族全員が本来もっている尊厳と、平等で譲り渡すことのできない権利を認めることが、自由と正義そして世界平和の基礎である。人権の無視と軽蔑が、人類の良心を踏みこむ野蛮な行為を引き起こしてきた。(略)」ここ連日ニュース等で報道されていることは正に人権の無視、人をないがしろにする行為。自己の目的のため他者を手段とする。世界平和統一家庭連合(旧統一教会)問題、当団体と政治家との係わりしかり。その最たるものが戦争。ロシアのウクライナ侵攻である。

国内では「自己責任論」が弱い者を更に追いつめている。本来は政治の果たすべき責任を個人の問題にすり替える政治の冷たさ。政治(家)に法律以前に倫理、道徳が意識されなくなれば良心を失い社会、世界は荒廃する。

人間が貶められている。何と悲しいことだろう!だが憲法13条も宣言する。「すべて国民は、個人として尊重される。生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利については、公共の福祉に反しない限り、立法その他の国政の上で最大の尊重を必要とする。」ここに全ての人々が保証されている存在なのだ。尊重されることは生きることには確かな自信を与え、人としての尊厳は大いなる力と勇気をも与えてくれる。全ての人々が尊い存在なのだ。

今一度このことをしっかりと胸に刻み何事もここから出発したい。



心がザワザワ・モヤモヤする

関 一

女優の東ちづるさんがツイッターで呟いた。戦争、コロナ禍、政治とカルト宗教の癒着、中略、権力の横暴・・・心がザワザワモヤモヤする日々、と。共感する。

本紙 100 号から本号と重なる安倍とそれに続く菅、岸田政権の間、アベノミクスの失敗、消費税 UP、安保法制採決、壊憲をちらつかせ、学術会議委員任命拒否、国会軽視、事実上の三権分立破壊、よるべき法律がない国葬を強行。閣議決定による独裁政治である。さらには、コロナ禍の中五輪を強行、原発事故を終息できぬまま原発再稼働へ誘導、森・加計不正、関係して赤木さんの自死とその真相に蓋をする等モヤモヤする事ばかりである。

さらに、元首相殺害と言う惨劇は政治家とカルト旧統一教会との癒着を暴き出した。

参院選では野党共闘が機能せず、自公とそれを補強する党に票が集まり、N国、参政党などにも票が流れた。れいわの山本太郎さん、社民の福島みずほさんが議席を守ったのにわずかな希望を見出す。

ドイツなどでは学校教育で主権者教育を行い、デモのやり方さえも学ぶと言う。翻ってわが国では若者を政治から遠ざけようとの力が働いているようにも見える。

一方で、大阪西成高校では生徒みずから各政党にアンケートをおこなって議論する学習を行っている。このような実践に望みをつなごう。

戦後 77 年何とか憲法 9 条を変えず民主主義をつないできた。ザワザワモヤモヤしない未来を子どもたちに残せるか今は正念場である。

300 号に明るい話題が載るのを期待する。